

第8回支部委員会報告

第6回全国大会・第6回定期 地方大会議案審議 前編

7月27日(土)13時より、墨田区横網町のKFCビルにて新東京支部第8回支部委員会が開催されました。この支部委員会では、第8回全国大会並びに定期地方大会の議案審議を中心に、職場の問題点なども含めて討議されました。

井上書記長より開会宣言がされ、議長には2特分会の福井代議員が選出されました

冒頭、下山支部長から「6月の東京都議選は厳しい中でも北多摩3区の尾崎大介が当選したが、7月の参議院選挙では、さだみつ克之は残念な結果となった。民主党が大変な逆風ということも原因があったが今回の結果を受けて、今後5年総括の中で連合や政党のあり方などについて議論されなければならぬ。一方、新社長の西室さんは

早速アフラックとの提携や株式上場に向けて動き出している。やはり政治との関わりあいは切り離せない。我々はもつと政治に関心を持たなければならぬ。そのような中で8月20日から全国大会が開催されるが、皆さんに深く関係する人事給与制度改革を中心に議論される。今日出された意見はしっかりと反映させていくので忌憚なく活発な議論をお願いする。」と挨拶がありました。続いて荒牧組織部長から、東京地本見解に対する支部の考え方が示されました。「おおむね賛成だ。やはり政治に対する意識の向上は図りたい。組織拡大については全国大会までにあと21名を積み上げたいので各分会の協力を要請する。人事給与制度については

評価者の訓練等の取り組みを、また労働力政策については要因が減らされている現状をどう打開するかを求めなければならぬ。」

〔人事給与制度改革について〕

〈新一般職関連〉(2普・2特・窓口) Q 月給制契約社員は、段階的に新一般職に移行し、月給制は廃止していくという話だが、中には新一般職への移行を希望しない人もいる。そういう場合の対応はどうするのか。また、時給制社員の方々は、何年後に新一般職に登用されるのか？

支部答弁 確かに月給制社員は3年程度かけて新一般職に移行していく予定だ。そこで新一般職を希望しない人がいる人への対応として、月給制社員制度

をその間残すのではないかと、いう地本の見解があるが、決定ではない。時給制社員の新一般職への登用については、月給制の新一般職への移行が終わってからになると思うが、募集の方法等を含めて現段階では明確な基準は示されていない。

Q 月給制社員が移行してから時給制の登用が開始されるとすると、月給制社員が残っている間は時給制社員の登用が遅れていくのではないか？ また新一般職の年収だが、450万から470万に引き上げられたが、諸手当を含めた額であり、賞与も4・3カ月の計算だ。まだ魅力があるとは言えないのではないか。

支部答弁 月給制が残っている分、時給制社員の新一般職への

登用を遅らせるということではない。確かに優先的に月給制を新一般職に移行していくが、それがあがる程度終われば時給制から登用していく。数年前に時給制からも正社員登用した経緯があつたが、やはり月給制から優先して登用すべきとの意見が多く、新制度では月給制を優先させた。年収について20万の引き上げが不十分という意見だが、やはり新一般職としての需要があることは事実である。また、改正労働契約法が本年4月から施行され、これまで何年間も時給制で有期雇用を繰り返してきた人の処遇については、会社内だけの議論ではなく社会的な議論になつてきているということも知っていただきたい。

明日に続く

第8回支部委員会報告

第6回全国大会・第6回定期 地方大会議案審議 後編

業績手当関連 (1普・

1特・1輸送) Q ポイント

制の導入について、外務社員に
は明確な基準が示されている

が、内務社員についてはどうい
った事柄がポイントにかかって

くるのか? 新東京の場合業務
が特化され、かなり特殊な職場
になっている。評価の物差しは
全国とは異にすべきではない
か。また、局内でも各職場によ

って事故の発生率は異なる。特
殊の場合は発生しやすい。一生
懸命やってもポイントが減らさ
れては納得いかない。

支部答弁 ポイント制につい
ては、外務の方が説明しやすい
ということからポイントの中身
が明確になっている。内務につ
いては示しにくいという理由で
まだ精査されていない。先週か
ら支社において管理者を集めた

勉強会を開催している。これか
ら具体的な内容が下りるので、
そこで議論を始めたと思う。

Q 内務の手当てが示しにく
いとはいっても、もう5年以上
も議論されている。会社から示
されないというのは不信感があ
る。基本給を減らして業績手当
に幅を設けるということは、業
績手当で稼がなくてはならな
い。未だに分からない中で、妥
結承認していいのか。また、年
休を取得した場合はポイントが
付かないのか。また、頑張った
者とは結局営業のことなのか。

支部答弁 年休取得とポイン
トについては、出勤と同様に扱
われる。確かにカタログや年賀
など営業項目は評価しやすい。
しかし、もちろんそれだけで評
価すべきではなく、個々人がど

のような役割を持ってどんな仕事をしているかを、評価者がしっかりと見てフィードバックしなければならぬ。明年4月より限定的にスタート予定だが、議論すべき項目はたくさん出てくる。また、業績手当は、現行の各種手当を原資にしたものだ。基本給から2割を原資にしたものは役割成果給となるので、整理して考慮してほしい。そのほか、現給補償についてはCランクを基準にしていることから、DやE評価を受けた場合は現給保障からダウンすること、退職金に関するポイント制度について過去に役職についていた者が一般に降格した場合でも、役職時代のポイントが加算されることなどが質疑応答されました。

【各社の現状と課題】（窓口）

議案書にあるように、4月よりゆうパックが取引管理システムに移行したが、不具合が発生し、いまだに解決されていない。ゆうパック部を中心に職場は大混乱した。2010年の一件から何も学んでいないのではないか？。来年秋には通常郵便を含め本格導入されるが大丈夫か。支部答弁 指摘の通りで、過去にも新しいシステムへの移行が成功したためしがない。今回も事前に最大限の負荷をかけた試験が行われたが、それでも不具合が発生し復旧ができない状況は、会社側の責任を問うべきと考える。全国大会でも追及していく案件だ。

【地方大会議案】（2特）東京フェスタのあり方についてだ

が、被災地などで興行することはできないか。復興のために経済的に少しでも潤せないか？また、カンパの要請が多すぎないか？

支部答弁 東京フェスタは入場料を全額復興カンパにしている。また、東京地本として被災地のボランティア活動をしている。復興のための活動はしていると判断している。カンパのあり方はやはり負担のかからないよう地本に要請する。

この後、職場の問題点について各分会から質問や意見が出されました。尚、4月1日に執行委員が2名転出したことから、I普の高橋卓馬さん、3パックの金沢稔さんが新執行委員として立候補し、本委員会で承認されました。

以上

日 刊	JP新東京	No.1180	2013年8月5日(月)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

ゆうパック輸送時における 使用輸送容器の拡大について

東京支社郵便事業本部より、ゆうパック輸送時における使用輸送容器の拡大について情報提供がありましたので周知します。

概要は、ゆうパックの輸送効率向上を図るため、現在地域間輸送に限定して使用している鉄製Ⅲ型（赤パレ）及び鉄製Ⅳ型（赤パレ）を地域内運送便に拡大して使用するとしています。

しかし、鉄製Ⅲ型及びⅣ型は高さが2mあるため、地域内便を輸送している日本郵便輸送(株)及び関連会社において搭載不可能な車両も存在することから、毎日100パレ以上のゆうパックを処理している銀座郵便局に限定し、パレットの有効活用に繋げていくというものです。

1 使用対象

(1) 対象郵便局

銀座郵便局

(2) 対象運送便

ア 銀座郵便局発着する新東京（ゆうパック）伝送便全便

イ 新東京（ゆうパック）・芝線 補助下1号便及び補助上一号便

2 使用開始日

平成25年8月19日(月)～

3 今後の対応

郵便路線（郵便物のみ搭載）については、現行どおり都内全局ロールパレット及び鉄製Ⅱ型（黄色）を使用することとし、ゆうパック専用路線については各郵便局の輸送容器出入り状況及び運送便車両の運行状況等を考慮し対象局を拡大する。

4 輸送容器配備数 (参考)

(1) 鉄製Ⅲ型及びⅣ型パレット

	鉄製Ⅲ型	鉄製Ⅲ型(改良型)	鉄製Ⅳ型
配備元	日本郵便輸送(株)		
配備時期	平成24年3月	平成24年10月	平成25年3月
台数	35,000台	10,000台	20,000台

(2) ロールパレット等 (平成23年10月輸送容器全数調査結果)

	ロールパレット	鉄製Ⅱ型
台数	116,389台	64,978台

地本は、銀座局ではゆうパック及び郵便物等の取扱量が多く、ロールパレット(銀パレ)だけの対応では輸送容器が常態的に不足し、常にパレット請求を行っている実態が生じていることから輸送容器の有効活用として鉄製Ⅲ及びⅣ型パレットの使用拡大は理解するところです。

しかし、鉄製パレットはロールパレットとサイズが異なるため、鉄製パレットが搭載できる車両問題や運送便での車両調整等の課題について支社に見解を求めました。

併せて、今後対象局を拡大していく方針について説明を求めました。

支社は、鉄製パレットが搭載不可能な車両については、現状でも地域内運送便で使用されている現状を認識しており、今回の拡大については4t以上の運送便が多い銀座局で実施することで、車両管理も含め日本郵便輸送(株)東京支社と調整を図ってきた経緯にあるとの見解を示しました。

また、今後の拡大については、ゆうパックの取扱量が多く状態的にパレットが不足している大規模局等、ロールパレットと併用することによりパレット不足が解消するなどメリット効果がある局を選定していきたいとの見解を示しました。

なお、時期については来年1月以降を想定しており、郵便輸送(株)東京支社と車両管理も含め十分協議していきたいと説明がありました。

以上

日 JP新東京 刊	No.1182	2013年 8月 7日(水)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

物流ソリューション営業の試行について

本案件の概要については、顧客の幅広いニーズ（物流に関する情報システム、DM等の印刷、流通加工作業、荷物のみではなく郵便も扱える当社の強みを活かしたトータル物流サービス等）に一元的に対応する営業体制の整備を目指し、物流ソリューションセンター（以下センターと言います。）を設置し、物流ソリューション営業の試行を実施するというものです。

1 試行期間

平成25年8月12日から平成26年3月末まで

2 試行拠点（センターの設置局）

（1）新越谷郵便局

局内に作業スペースが確保でき、前工程となる大手印刷業者が集中する地域

（2）川崎港郵便局

局内に作業スペースが確保でき、輸入販売業者等となる倉庫が集中する地域

3 試行体制

（1）センターの設置

試行期間中は本社組織とするが、センター長等はセンター設置局を拠点として営業活動を行う。

センター長には、センターの予算管理、業務運行、営業推進等の責任を負わせるとともに、特約運賃の決定、顧客との業務委託契約、役務や物品の調達権限も委譲する。

（2）センター体制

センターには、センター長1名及び営業、オペレーションに精通し

た人材を2名程度配置し、物流ソリューション営業の推進を担う人材を育成する。

(物流ソリューション営業の組織)

- ・ 本社内「物流ソリューションPT」設置(専務6名程度)
- ・ センター(専務3名程度、計6名程度)

4 検証

試行状況について検証し、本格実施へ向けて方針協議を行う予定。

- ・ 一元的な営業による顧客獲得及び見込み
- ・ センターの権限範囲と顧客ニーズの合致
- ・ トータル物流サービスに関する営業及び業務計画作成スキルの育成方法

本部は、会社に対し、試行拠点(センターの設置局)の作業スペースの確保状況について質しました。

会社は、新越谷郵便局及び川崎港郵便局ともに、局舎1階に作業スペースを確保したとしています。

また、試行期間においてセンター配属となる社員については、支社法人営業部の所属とし、本社物流ソリューションセンター及び同センター併設郵便局兼務の上、支社法人営業部の営業手当を支給するとしています。

本部としては、この間、物流部門の営業推進として、ロジスティクスサービスの拡大等を行ってきた経過や、ネットワーク再編に伴う施設活用の観点から、本案件の試行については了とし周知します。

なお、一定期間経過後、試行状況についての検証を情報提供させることとし、本格実施を行う際には、組織体制のあり方等を含め、再度説明させることを会社に対し確認したところです。

以上

第52回通常総代会 開催される！

ポストライフは生協法に基づき厚生労働省の認可を受け、日本郵政グループ会社とその関連会社を「職域」として事業を行う非営利の生活協同組合です。

通常総代会は毎事業年度に1回開催することが生協法で定められており、毎年度の事業計画や予算、決算、役員選出などの重要な事項を組合員の代表（総代）の総意によって決めています。

★2012年度剰余金処分 承認の件

1. 利用分量割戻しの基準は次のとおりです。

(1) 火災共済

年度末有効契約口数に、1口あたり割戻し単価（木造契約8円相当、耐火契約4円相当）を乗じた額とします。（通年の払込掛金の対する割合で算出します。）

(2) 交通災害共済

年度末有効基本契約口数に、1口あたりの割戻し単価（55円相当）を乗じた額とします。（通年の払込掛金の対する割合で算出します。）

(3) 利用分量割戻金は、従前どおり全額出資金に振替るものとします。

利用分量割戻金とは??

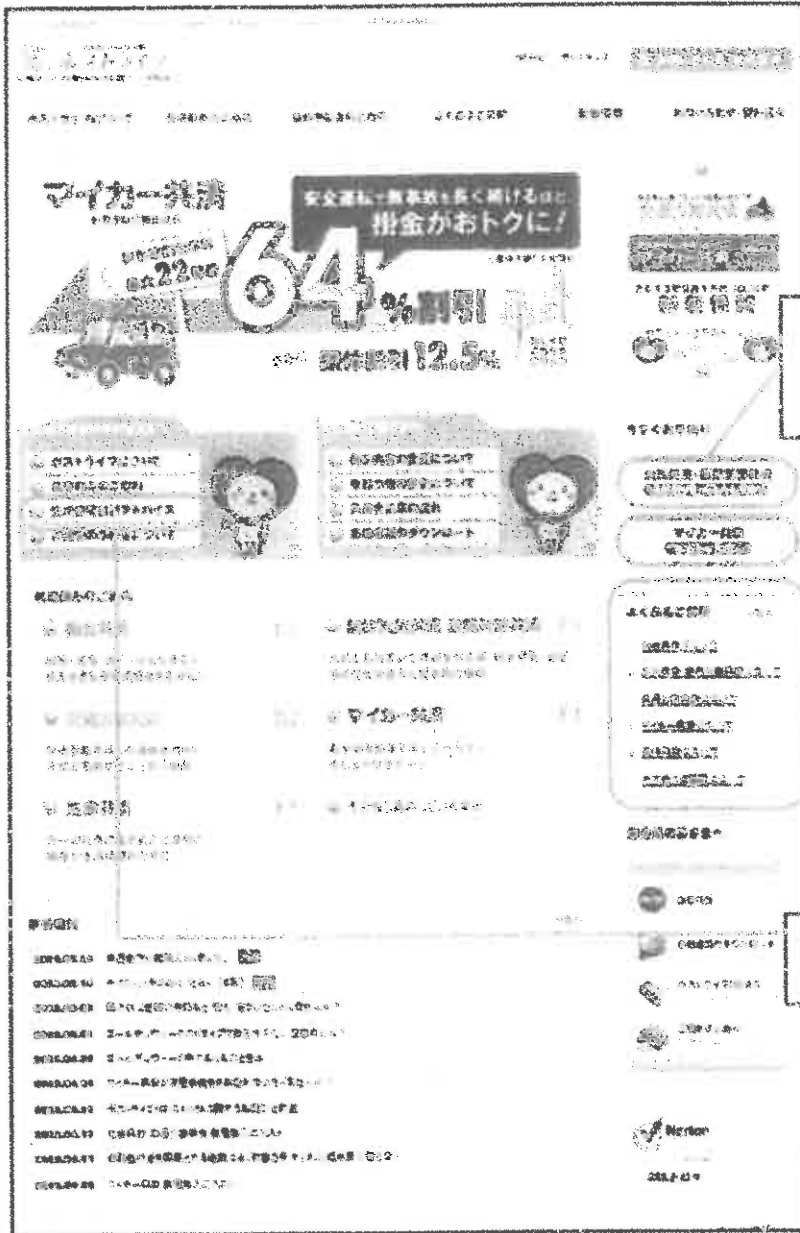
毎年、年度末（3月末）に決済を行い、剰余金が生じた場合、組合は組合員の組合事業の利用分量（払込み掛金に応じた加入口数）に応じて剰余金の割戻しを行うことができます。

ポストライフでは総代会の承認を得て、出資金に振り替えています。

出資金は退職するときまたはポストライフを脱退するときなどに払戻します。

ホストライフのご案内

ホームページをご覧になったことはありますか？
～スマートフォンからもご利用いただけます～



簡単・便利ポイント

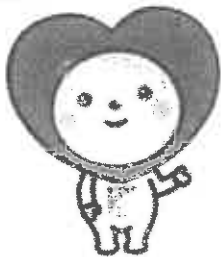
わずか2stepで
火災共済済・自然災害共済の
掛金をご案内します

マイカー共済のお見積りに
ご納得いただいたら
そのまま申込書を
ダウンロード！
面倒な記入を省略できます

充実のQ&A

何にいくら掛ければよいか
保障設計のポイントをご案内

新着情報は毎週更新
しています。



詳しくは

ホストライフ

検索



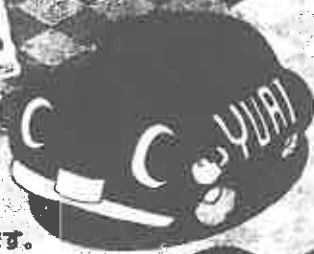


2013年7月27日(土)、国際ファッションセンタービルにて開催された **JP** 労組 **新東京支部 第8回支部委員会**における議案審議意見集約に関し、二特分会を中心とした前回の日刊報告において、紹介しきれなかった各分会の意見概要を一部抜粋し、公開する。

- 一普 節電コンテストを取り組んでいるが、暑さ対策との関連性を考慮にいられているのか懐疑的である。
グッドジョブシールの存在意義、また評価者の評価基準の曖昧さ・適当さが露呈しており、管理者も明確な説明ができなかった。
- 二普 アマゾン追跡ゆうメールは今後も増えるのか。また増えていく場合の対応策を。誤支給があった場合のチェック機能強化体制を図って欲しい。
- 一特 夜勤16名体制がもはや12名に減り、その状況下で業務量も増え、事故ゼロを掲げられても大変厳しい状況である。増員を切に願う。
- 一輪 有人車の故障が多く、業務遂行に支障をきたしている。オーバースライダーの開放時に冷気が逃げてしまう。空調管理システムを充実させる、扇風機を様々な場所に配備する増加案など、対応策を図って欲しい。また、期間雇用社員が少なくなり、要員も不足している。
- 3A°℃ チルド室が狭く、業務上支障が出るので解決策を。また休憩が、中々取れない等の問題点も抱えている。
- 羽田 首都圏ハブから来る冷凍ゆうパック。チルドボックスが50kg~100kgあり、かなりの重さだが、常にX線をかけており、期間雇用者を前超で対応している状況である。非生産的と考えられるので、移行させるなど打開策はないものだろうか。

JP労組の 団体扱自動車保険

今なら



従来の自動車保険からJP労組の「団体扱」に切り替えると、保険料が最大で5%割引されます。



大口団体割引適用で

27.5% 割引!

一括払ひら約31%割引

※大口団体割引は平成25年4月1日～平成25年12月31日に限り適用されます。大口団体割引は団体別の台数・損害率に応じて毎年1月1日に見直されます。



等級(無事故割引)は継承!

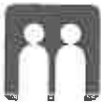
他の保険会社・JA共済、全自共等からの切替もOKです。一部継承できない共済があります。※詳しくは営業代理店までお問い合わせください。

●保険料のお支払いはゆうちょ銀行の口座振替

保険料のお支払いは、保険始期2ヶ月後からゆうちょ銀行の口座振替。振替日は毎月24日です。(土日祝日の場合は前営業日)お支払いは、「12分割」と「一括払」が選べます。12分割の場合、分割手数料はありません。一括払の場合、さらに5%割引です。(大口団体割引と合わせて実質約31%割引です。)

●ご家族の車も大口団体割引が適用

「保険契約者またはその配偶者」の同居のご家族(「保険契約者またはその配偶者」の別居中の扶養親族含む)が所有されているお車にも「大口団体割引」が適用されます。※保険契約者はJP労組組合員さまとなります。



退職後も継続可能

退職後も大口団体割引を適用して継続できます。

●土日祝日も契約内容変更の受付

平日は20時まで、土日祝日は17時まで、お車の入替や住所変更などの契約内容の変更を三井住友海上カスタマーセンター「契約内容変更デスク」でお受けします。(JP労組組合員さま専用ダイヤルをご利用しています)

●事故の受付は24時間365日対応

三井住友海上の「事故受付センター」において、24時間365日の休日で事故のご連絡をお受けしています。全国約230ヶ所におよぶ保険金お支払いセンターで約7,000名の経験豊かな専門スタッフが、親身かつ迅速に事故対応にあたります。

三井住友海上カスタマーセンター「新規サポートデスク」

いますぐお電話ください

0120-189-282

[ご利用時間]月～金 9:00～20:00 / 土曜日 9:00～17:00(日祝休)

FAX 0120-188-985

FAXは24時間受付いたします

インターネットでも

団体扱新規自動車保険のお見積りが可能に!

<http://www.jprouso.or.jp/welfare/>

[JP労組福祉共済コーナー]・[郵受]のHPから計画中です。是非ご利用ください。



日
刊

JP 新東京

No.1185

2013年8月15日(木)

日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部

TEL 03-5606-6784 内線 4353

終戦記念日 68年目の夏

横浜大空襲の爪痕を探って

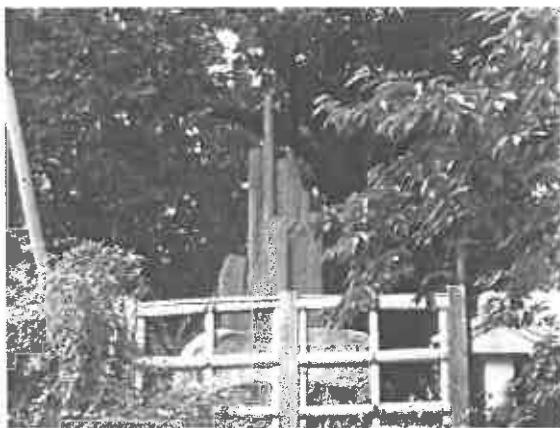
横須賀に住んでいる従兄弟から、叔父の三回忌の案内を受けた。法要を済ませ、その日は一泊することにした。酒がすすみ、30年前に亡くなった祖父の話になった。

そう言えば母からは、母が9歳の時祖父と省線電車で搭乗中、横浜大空襲にあった話を聞いたことがあった。死を覚悟した朝だったと話していた。

横浜は一時期、京都や広島などとともに原爆投下の目標とされていた。原爆投下の対象地域は空襲を受けなかった。アメリカ軍が、街を残して原爆の被害を検証するためだ。やがて横浜は地形的な理由で対象から外され、かわりに空襲を被ることになった。1945年5月29日の早朝だった。東神奈川から伊勢佐木町にかけて44万発の焼夷弾が投下された。3月10日の東京大空襲よりも数万発多い数字だ。

翌日。京急線での帰り道、上大岡で普通電車に乗り換え、黄金町駅で下車した。独特の雰囲気、空気が重い。あの朝の黄金町駅は偶然上下線で電車が停車していた。そこに空襲が起きた。突然だった。ホームから階段を降りる人々は火だるまとなり、折り重なるように倒れていった。

黄金町駅付近は各地から集められた黒焦げの死体置き場となった。しかし軍は戦意喪失を防ぐためすぐに運び去り、砕けた骨を埋めて土饅頭にした。供養として祭られた地蔵が、駅から少し離れた普門院という寺にある。少し高台にあるため、空襲直後助かるといった人々が避難してきた。しかし、火の勢いが勝った。この寺には戦前に建てられた大きな墓碑があるが、この空襲の熱により墓石が割れてしまっている。当時どれほどの灼熱が人々を襲ったかをこの碑は語る。



この寺には戦前に建てられた大きな墓碑があるが、この空襲の熱により墓石が割れてしまっている。当時どれほどの灼熱が人々を襲ったかをこの碑は語る。



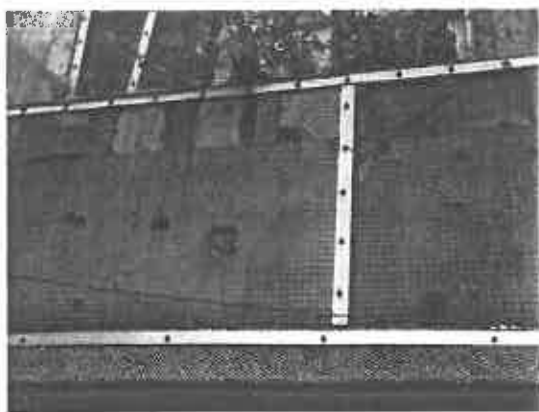
普門院から県道を西横浜方面に歩く。久保山という丘を登ったところに、霞橋という橋が架かっている。火の海で蒸し焼きにされる人がバタバタと倒れていく光景を見た。人々は、絶望感に襲われながらこの橋の欄干を乗り越えて飛び降りていった。橋の一部は大正時代に建立されたまま残されている。レンガの壁の無数の傷は、銃弾の痕だろうか。

空襲による死者は1万人近く、罹災市民は30万人にのぼり、炎と煙が完全に収まるまで1カ月を要した。

空襲の様子を震えながら目撃していた人たちがいる。再び普通電車で10分、京急新子安駅から山手側に浅野学園という学校がある。当時の生徒や地域の人々が、空襲に備えて防空壕を作った。ここに避難した人々は助かった。しかし人黒煙が渦巻く横浜の惨状、地獄絵図を目の当たりにしなければならなかった。朝だというのに真っ暗な空、すだれのように降る焼夷弾。防空壕跡は、今日でも戦争遺跡として残されている。



新子安駅に戻る。閑静な駅に快特電車が轟音をたてて通過していく。京急線のダイヤは緻密性の高さで有名だ。程なくして来た普通電車に乗り5分ほどで花月園前駅に着く。住宅街を少し歩くと国道15号線に出る。道路を渡ると異様な古めかしさをもつ駅がある。JR国道駅は、昭和5年の開業当時のままの駅舎だ。B29が焼夷弾をばら撒くのと並行して、P51という戦闘機が、地表に向けて機銃掃射を行った。この駅舎に生々しくその弾痕が残っている。徹底的に命を奪い取る。それが戦争というものだということを思い知らされる。



戦後68年。戦争を体験した人からの生の声を聞くことはもはや難しい。しかしその爪痕は、戦争を二度と繰り返すなと警告している。惨禍を風化させず、次代に伝えること。これが平和を守り抜く私たちの務めではないだろうか。

日刊
ア
新東京

No.1186

2013年
8月15日(金)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
編集部

03-5606-6781
内線4353

「心ひとつに連動」企画 福原支部エリア内作業ボランティア

新東京支部第10陣

作業ボランティアとして派遣！

№1

8月9日(金)～11日(日)にかけて、新東京支部から営業執行委員、高橋(卓)執行委員、外立2分会書記長の3名で相双支部エリア内に居住する組合員宅の作業ボランティアに参加した。

初日は、福島駅到着後、レンタカーで今回の宿泊先である原町ステーションプラザホテルへ向かう。車中、今回行動を共にする南関東地本都留支部の坂本さん、深

左から南関東地本都留支部の坂本さん、池谷さん、深澤さん



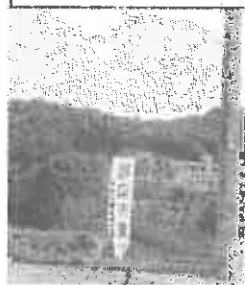
澤さん、池谷さんと地本責任者の東京地本小林執行委員の挨拶兼自己紹介

を交わし、今後のスケジュールを確認する。初日は作業ボランティアの予定はないため、被災状況確認と称した現地視察を実施。このエリアは、原発事故の影響で放

射線量が高い地域があるため、立ち入りが一部制限される。

話し合いの結果、263号線を海岸沿いまで走り北上することとした。見知らぬ土地での行動に戸惑いながらも、なんとかナビを頼りに走り海の見えるところまで辿り着く。途中、瓦礫の山や壊れた乗用車が未だ放置されていて衝撃を受けた。

各所にこの旗が掲げられている。



また、この地域の特有の除染作業中の旗が掲げられているのを目の当たりにして、この災害の深刻さを痛感した。

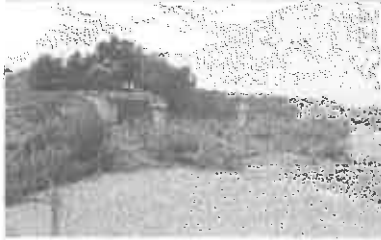
地震と津波で損壊したのである。車道を走っていると、東北大地震で甚大な被害を受けた原町

火力発電所手前の北泉海水浴場
 にたどり着き車を停めた。かつて
 は、多くの
 海水浴客
 で賑わって
 いたである
 うこの場所
 も、今では
 もの寂しい
 状況であつ

奥手に見えるのが原町火力発電所。震災で甚大な被害を受けた。手前に広がる海水浴場はほとんど人影がない。



海水浴場周辺にあった崩壊した橋。津波の脅威が伺える。



た。相双支部の方が、『海の近くに
 に住んでいるのに海で遊ぶことが
 できなくなった。ここの子供たち
 は遊び場がなくなった。本当に可
 哀相だ。』そう嘆いていた事が忘
 れられな
 い。

震災の

影響で地
 盤沈下し
 た砂浜は、
 子供たち
 が遊泳す
 るにはあま
 りに危険

海岸沿いには地盤が沈下した影響でいたるところに水溜りが出来ていた。



な海岸となつてしまった。そこか
 ら原町火力発電所を超えて海岸
 線をさらに北上すると、偶然海
 に向かつて手を合わせる団体と出
 会う。最愛の家族を津波に奪わ
 れ、無念の思いと鎮魂の祈りを捧
 げる後ろ姿に言葉も出なかった。

左から高橋(卓)執行
 委員、作業宅の家主
 の表さん、営家執行委
 員、外立2 普分会書
 記長。

新東京支部を代表し
 て、今回作業ポランテ
 ィアに行ってきました。
 活動内容を3 日間に
 渡り報告します。



日 刊

JP 新東京

No.1187

2013年
8月19日(月)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

「心ひとつに運動」企画 相双支部エリア内作業ボランティア

新東京支部第10陣

作業ボランティアとして派遣！！

No. 2

8月10日(土)、2日目の今日はホテルから今回お世話になる相双支部の皆様と待ち合わせの後原町局へ移動。局駐車場前で集合した後佐藤相双支部長より挨拶を戴き、続いてボランティアの作業手順と本日予定している被災地域視察についての確認を行った。

相双支部役員のご案内で局を出発し、今回作業を行う組合員宅のある南相馬市小高区を目

指す。ここは原発事故による半径20キロの旧警戒区域圏内であり、昨年3月まで立ち入りが厳しく制限されていたが、避難区域再編に伴い、宿泊禁止の条件付きで立ち入りが認められるようになった。小高区に入った途端、今までの原町区の雰囲気とは一変する。壊れたまま放置された民家に荒れ放題の田畑、地震の影響により壊れた道路や橋がそのまま残っており、復興というには程遠い状況であった。



自宅庭には無数の雑草が生い茂る。

組合員宅に到着し、家主の表さんから被災した自宅の状況を聞き、「ここは海岸線から5キロ離れているが、津波が近くを走る国道6号を乗り越えて自宅の1階床まで浸水した」という。津波の威力を改めて知ることとなった。

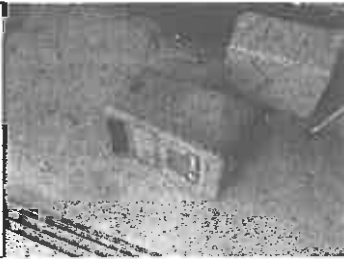
午後は相双支部のご案内で浪江町内へ向かう。

浪江町は区域再編により、今年4月から浪江市街地と海岸付近の立ち入りが許可されたが、午後4時以降は町の外に出

なければならぬという。検問を越えて津波被害の甚大な請戸(うけと)地区へ向かう。その途中津波で流されてきた漁船や車の山を目の当たりにする。

そして請戸漁港があった集落の中心にたどり着くと、そこは津波によって町ごと流され、

わずかに漁協の建物が残る凄惨な世界であった。2名の組合員が犠牲となった請戸局のあ



途中立ち寄った漁協の建物内に津波で流されたと思われる郵便ポストを発見。(右写真)
2名の組合員が犠牲となった請戸局跡地。未だ1名が行方不明のまま。(下写真)



た場所に参加者全員で黙祷し、犠牲者の冥福を祈った。

続いて津波が2階まで押し



2階まで津波が押し寄せた請戸小学校の校門。震災時から時は止まったままだ。(右写真)
請戸小屋上から見渡した風景。奥手の丘の向こうに福島第一原子力発電所がある。(下写真)

寄せた請戸小へ向かい、学校内にある海の見える高台を登るとそこからは福島第一原発の煙突が見え、原発事故

の最前線がすぐそこまで迫っていることに衝撃を受けた。校舎内を覗くと避難直後の慌しい状況がそのままの状態となっていた。



海岸線を抜け、浪江局のあ



浪江支店(当時)入口。局前には震災時の宣伝ポスターが貼られたままであの日から時は止まったままだ。

る駅前を目指す。浪江局前に降り立つとそこは人の全くいない静けさと、震災の日から時が止まった世界であった。浪江局周辺は津波被害こそ無かったものの、町内の除染が来年以降ということもあり、人が住むまでにはまだまだ時間がかかるそう、原発事故の深刻さを痛感することとなった。(続く)

日 刊
ア
新東京

No.1188

2013年
 8月20日(火)

日本郵政グループ
 労働組合
 新東京支部
 広報部

03-5606-6784
 内線 4353

「心ひとつに運動」企画 相双支部エリア内作業ボランティア

新東京支部第10陣

作業ボランティアとして派遣！

No.3

2日目の日中の作業では、未だ遅々として進まない復興の現状を知り、そして、その中でも懸命に生活している仲間が存在に勇気をもらった。

作業終了後には、大変な時期であるにも関わらず相双支部の方々と懇親する場を設けていただいた。今回の目的は、ひとつに相双支部組合員宅の作業ボランティア、そして、もうひとつに東京

地本の女性フォーラムが作成したアクリルたわしの授与式にあった。

相双支部、名取執行委員の進行で会は開かれ、「今日は本当にお疲れさまでした。私たちは、大変つらいことも確かにあります。ただ、皆さんが来てくれたこの時だけは笑顔で楽しく過ごしたい。みんなが本当に楽しみにしていました」と気さくな心温まる挨拶をいただいた。東京地本からは安達

アクリルたわしの授与光景。500個を超えるアクリルたわしが手渡されました



企画部長始め、宇井男女共同参画部長、そして、3名の女性フォーラム役員が駆け付け、相双支部からも多忙な中3名の女性フォーラムの方々とユース役員が参加し式典を盛り上げた。東京に採用になってリターンされた方や昨年出産した方などの話を聞きながら楽しい時間を過ごした。

最終日は昨日同様、表さんの自宅の庭の草刈りや庭木の伐採となった。広大な敷地の草刈りは困難とも思えたが、作業にも慣れて順調に推移し見違えるものとなった。途中、避難所での生活やこれまでの職場での話などを聞きながら、この災害の深刻さや今後の継続した取り組みの必要性を再認識した。参加した私たちの技術も向上し、草刈り機やチェーンソーをある程度使いこなせるようになり、表さんの庭も訪れたときとは見違えるように綺麗になっ



↑ 周囲の木を処理、庭を改めて感心。庭木を処理、庭を改めて感心。草刈り機やチェーンソーをある程度使いこなせるようになり、表さんの庭も訪れたときとは見違えるように綺麗になっ

搬送した枯れ木を搬送。枯れ木といえども侮れない。3人がかりでないと重くて運べない。



↑ 木の枝のチェーンソーでもばり切ります。庭木を処理、庭を改めて感心。草刈り機やチェーンソーをある程度使いこなせるようになり、表さんの庭も訪れたときとは見違えるように綺麗になっ

3日間で行われた第10陣ポラントイアもあつという間であった。別れのあいさつを交わしていると、相馬野馬追のパンフレットを私たちが一人一人に配ってくれた。甲冑競馬や神旗争奪戦など迫力ある行事が行われる国の重要無形民俗文化財だ。

億か3日間の活動だったが、絆は十分に深められたと思う。来年の夏には、再びこの地を訪れ、野馬追を拝見したい。そして、この相双支部の仲間たちとお会いし、復興への道のりの歩みを共に進みたい。表さん宅から車で帰宅する際、ずっと手を握ってくれた相双支部の仲間笑顔が忘れられない。



前列右側相双支部大和田副支部長、左が中河相双支部執行委員、JP労組旗右後が外立2普分会書記長、中央が家主の表さん、左が東京地本小林執行委員、その左相双支部天野執行委員、最後列左から相双支部名取執行委員、都賀支部深澤・池谷執行委員、新東京支部高橋・菅家執行委員、都賀支部坂本執行委員。

日刊
新東京

No.1189

2013年
8月21日(水)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

大会開催地長崎①

第6回定期全国大会

長野ビッグハット 20日

8月20日から3日間の日程で、長野市にある「ビッグハット」において第6回全国大会を開催しています。新東京支部から井上書記長と荒牧執行委員が代議員として参加しています。会場であるビッグハットは一九九八年の長野オリンピックでアイスホッケーの会場となったところ。会場の中は天井が高く、壁にはオリンピックの五輪の輪が掲げられ、当時の熱気をそのまま閉じこめているようです。1階の入り口には

浅田真央さんやキム・ヨナさんのサインも展示してありました。

全国からJP労組組合員が結集し、代議員462名、傍聴者来賓者約800名が一つの会場で重要な課題を多く抱えている全国大会が開始されました。

議長は信越地本の内山代議員、副議長に九州地本の小山代議員が選任され、議事が進行していきました。

臼杵中央執行委員長より「暑い中、営業に業務にユニバーサルサービス

を確保するために努力してくれてありがとうございます。参議院選挙はきわめて厳しい結果となった。民主党への怒り憎悪とも感じられるものとなった中での選挙だった。なんぼ選挙より2万4千票減らして組合員比率でも五〇パーセントちよつととなった。組合員は重要な選挙とはわかりつつも票につながらなかった。

JP労組が組合員からの期待に応えられなかったと真摯に反省していきたい。組合員の雇用と労働条件を守る責任組合として会社の持続的運営を求めていきたい。自覚と自信を回復するために原点に立ち返って本部は取り組んでいきたい。会場は重苦しい空気があるが立ち止まっている場合ではない。JP労組の持てる力を発揮して組合員と向き合える取り組みをしていきたい。」と本部の決意と挨拶がありました。

たくさんの来賓に来ていただき、古賀連合会長、海江田民主党代表、阿部長野県知事、長野市から樋口副市長、西室社長、黒田局長会会長、国會議員等は奥野議員、赤松議員、なんば議員、中井元議員、山花元議員、さだみつ元候補、UNIのステイブン・ディマテイオ局長からあいさつをいただきました。なんば議員からは「全国大会で着席して3日間論議するのはJP労組だけである。良き作風、良き伝統をこれからも守ってもらいたい。代議員のみなさんは人の書いた原稿を読まずに自分の現場の声を出したらいと思う。本部は困りますか！この大会でJP労組の再建へ向けてしっかりと論議してもらいたい。」と唯一会場から笑いでるあいさつをしてくれました。

西室社長は高齢のため杖をつきつつ演壇に進んでいき、会場の重苦し

い空気に影響されたのかちょっと元気がなく声に張りがなかったが、「日本郵政の強みは郵便ネットワークであり絶対維持する。これを最大限活用し利用者への利便性を高めることが企業価値を高めることにつながる。会社の成長でありみなさんの雇用を守ることもつながる。株上場も速やかにしていく。株の上場は震災復興財源の確保でもある。経営に責任を持つJP労組としっかりと協力して事業を支えるJP労組と心ひとつにして様々な課題を取り組んでいきたい。臼杵委員長からは教わる事が多く退任されると聞いて残念である」と挨拶を頂きました。

会場の外ではいつの間にか雨が振り出していました。昼食を挟み一般経過報告、会計報告ののちに増田書記次長から大会議案の提案があり質疑が開始されました。

信越地本の代議員がトップで発言し、「一部の窓口で自動車保険を販売しているが、友愛やマイカー共済を解約し会社の保険に切り替えている。これからガン保険も同じことが繰り返されるのを危惧する。営業のためにサービス超動しないといけない。次世代システムの不具合発生は不具合に関しての経費が明らかにされていないし社員に転嫁してはならない。新人事は組合員へ浸透していかないし正しく説明されていない。公正公平な評価がされるよう求める。また、労働力不足による要員算出では正しく評価できない。また、正社員への登用数と登用可能数も明らかにしてほしい。」と発言しました。この後8人が発言して大会1日目が終了しました。

続きは明日の日刊で

日 刊
ア
新東京

No.1190

2013年
8月22日(木)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

大会傍聴速報②

第6回定期全国大会

長野ビッグハット 21日

第6回全国大会2日目の朝は雨がやんでいゝるもののムツとするくらい暑さとなった。楕円形の会場の中は、演壇後ろの前面に白いレースの垂れ幕がかかり「第6回全国大会」とのタイトルと、真ん中に赤いJPの旗が白と赤のコントラストで目立っている。演壇手前にはミニヒマワリの造花がたくさんおいてある。演壇左手は中央本部が座っていて全国からの発言者は演壇中央に立ち1人15分の持ち時間以内で発

言することとなっている。終了一分前にブザーが鳴る。代議員・傍聴者はお尻が痛くなるようなパイプ椅子に座りシーンと静まりかえって発言者の話に耳を傾けている。各地方は2名で交渉課題と運動課題の二つの項目に分けて発言をしていく。1日目午後から交渉課題について発言があり、2日目は東北地本がトップバッターで発言し、10時半までに13人が発言した。

発言はやや重複するところがあるものの、全国的に問題が共通であることを実感する。

主な発言の内容は、

「新たな人事評価制度は公正公平な制度となるのか。要員問題を解決しないと組合員は納得しない。医療事業の改善と医師不足の改善を。労働力政策の基となる5月物調は1日のみでは不十分。輸送の安定的収入の確保を求めろ」(東海)

「新一般職の賞与が年間4・3月で不自然。集配班長時間の確保と業務配達区の平準化。新一般職への登用は時給制から7年となっているが将来設計しにくい。中期経営計画ない。営業の地域内格差ある。内務は正社員採用なく高齢化進む。自爆営業の報道、問題あり。かんぽの離職率高い」(北陸)

「新人事制度は人材育成が目的、DE評価に適切な指導義務を。年収350万円、郵政職場でワーキングプアを産出す

る認識必要。輸送過積載防止策がない」(近畿)

「フィードバック者の育成、形だけの研修ではダメ。良質なサービス追求には正社員比率を高めること。JP労組の目線(正しいモノサシ)で正しい要員配置を。輸送、『安かろう悪かろう』でお客様サービスに悪影響」(中国)

「次世代システムのテストは実施したのか。輸送は多くの組合員が職場を去った。信書便全面開放の規制緩和が論議されているが、郵政は会議に入っていない」(四国)

「新人事制度の評価者訓練を求める。内務の複雑な勤務で評価ができるのか。有責交通事故で5ポイント減だと軽微な事故は未報告に。正社員の採用を求める」(九州)

「病休者の減額増は納得できな。社員登用は試験ではなく日常業務による考查を。育児休業は取得率を明確にすべき。

育休を取得しやすい職場環境整備を求める。労働力政策は管理職減からが常識。沖縄通送支部、会社が厳しいときこそ助け合おうべき」(沖縄)

「次世代システムは宅配統合の失敗による教訓がまったく生かされていない」(北海道)
 「東日本大震災の『心ひとつに』支援に感謝。転居を伴う転勤は10日前だと厳しい。『かんぼの宿松島』は再建の目途たらず。赤パレの過積載、水際対策を求める。震災から2年半経過、一步一步前進している。福島第一原発事故もあつたが、元気な福島を作るためにがんばっています」(東北)

「新人事制度に反対する意見が相次いだ。交渉強化を求め本部案に賛成。評価者への不信感絶えない。勤務時間外に営業している組合員多数存在。旧集配局に内務者の配置ない。共通プロパーが育たない。アフラック提携で多額の経費を要

したと聞くが、日本生命との今後の対応は。」(関東)

「医療事業、病院の科目を減らして運営。川崎東は海に囲まれた場所で、危機管理や通勤に問題あり。正社員100名措置なし、十分な作業スペース確保も無く改善を求める。新ネットワーク施策の全体像が示されていない。輸送(JPT)経営最悪、組合員の雇用を守れるのか。組合に入って良かったと思う交渉展開を求める」(南関東)

「新人事制度について賛成の立場で9点補強発言。現場は真に必要な労働力足りない、がんばった振りをしてる人が評価されないように評価者訓練を求める。月給制からの登用要件明確に。サービス超勤もある」(東京)

等の発言があり、交渉課題についての発言は終了。13人の発言を受け、本部の久保田執行委員より総論的な答弁がされた。

(続く)

日 刊

新東京

No.1191

2013年
8月23日(金)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線4353

大会傍聴速報③

第6回定期全国大会

長野ビッグハット 22日

全国大会最終日、22日の朝は雲があるものの日差しが強く暑いと思わず口にするほどの天気となった。長野県の安曇野では記録的な暑さのあまり畑で育てていたわさびの苗が枯れ始めている。これ以上暑くなれば病気にもなりやすいと地元の農家が語っていた。会場であるビッグハットは1998年の長野オリンピック以降はフィギアスケートなどの競技場となり舞台上に立っている人たちが真剣に演技している場所でもある。ホテルからのバスを降りると信越地本

の組合員が会場で「おはようございます」と元気にあいさつで出迎えてくれる。

中央本部の窪田中執の答弁と2日目の発言を報告する。

窪田中執の答弁「フィードバックは一部の支部で対話がされていない、遺憾である。公平な評価になるように提言していき、評価者のレベルアップを地道に育成していく。3・5年の多面的観察で継続して管理者育成を求めていく。また組合員は支部苦情処理で対応していく。定年

延長は真剣に今後どの程度再雇用が増えていくかによって対応していく、育児休業と病気休暇はトータルとして向上していると考えている。そして過失割合は事故がおきないのが前提と考えているが、D O S Sは通常と対面では違うので改善されるものはしていく」との総括な答弁がありました。拍手はあまり多くなかった。

2日目の午後から各地方から13人が発言し、さだみつ選挙、政治への対応、五年総括、株式上場、営業のあり方、役員配置の直し、原発政策、職場風土改革、平和課題などについて運動課題について発言があった。

「さだみつは惜敗ではなく惨敗だった。支部役員ですら休暇が取れない中、献身的な活動によって支えられている」（北陸）、「上意下達の脱却とボトムアップを求める。3・11心ひとつに運動の継続を」（近畿）、「政治的影響が大きい郵政事業、ならばより票が少なく、集い、語り、

聞く運動、J P 労組で良かったと思えるように。株の上場は赤字だと難儀。五年総括、会社を成長させるべくトルは同じだ」(中国)、「さだみつ選挙は日常的な組合活動の結果としてあらわれ、J P 労組の求心力を高めるべき。役員選出は人物本位も視野に」(四国)、「さだみつ落選、落胆の声があがった。本社支社からバラバラに指示がでてくる。支部事務局への事務員配置検討を。職場オルグ保証することを要請する」(九州)、「宅配統合失敗やシステム不具合で不信感が増え、責任追及はしているのか。自爆営業と勤務時間外営業をやり、仕事・家庭・育児がある中で組合活動も勤務時間外で献身的な負担により取り組んでいる。育児休暇休業が取得し辛いという現状も。また3・11を決して忘れてはならず、平和運動の重要さの認識が希薄。宜野座郵便局から2キロのところ米軍ヘリが墜落したが、地元の反対を押し切ってヘリの訓練が再開。

オスプレイ問題や領土問題が論議不進行」(沖縄)、「なぜ職場の風土改革とならないのか。なぜ株を上場するのか説明がない。ポーナス4・0月以上へ早期に力強い交渉を。T P P や原子力政策についてさだみつの考えがわからなかった」(北海道)、「組合員と真剣に向き合う取り組みをやってきたのか。さだみつ選挙はJ P 労組への信任投票と受け止めるべきとの声もあり、人物本位でたすきがけ人事の見直しを求める。システムの混乱4月以降もまた混乱するのではと不安がある。福島第1原発の放射能は下がっているとはいえ、作業に対する不安がある。労働安全・原発政策・T P P について考えを求める。震災復興への協力には改めて感謝します」(東北)、「情報がマスコミ先行し、不信感はぬぐえない。業務増大により組合活動困難。選挙後の組織の再生を要求する」(関東)、「システムの混乱で本社は誰も責任をとらない体質、福島

第1原発事故のために復興が目に見えない。連合のエネルギ政策は最終的に原子力を使わないというもの。安倍首相は原発を積極的にすすめている。反原発・基地問題は本部の論議が必要。本部段階での分会機能強化を求める」(南関東)、「政治学習を若者には必要。動ける分会役員をつくりだす必要あり。役員をやるメリットを感じられない組合員がおり、組合役員をやれば会社の役職をあげていくというのはいかがか。デジタルネイティブのためには自身のIT化は課題となる」(信越)

東京は地本書記長の小林代議員が「利用者利便性向上、組合員の雇用確保、子会社の組織化、相双支部ボランティアでは痛々しい傷跡がまだそのままとなっている。かんぽ施設の設置見直しは注視していく」と数点に渡って発言した。

本部最終答弁は月曜日の日刊紙で報告します。

日刊
JP新東京

No.1192

2013年
8月26日(月)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

大会傍聴速報④ 最終回

第6回定期全国大会
長野市「ビッグハット」22日

第6回定期大会は、2012年11月の2日間各地方から26名の代議員が壇上に立ち、交渉課題・運動課題それぞれの発言をした。中央本部の答弁が22日最終日にあり、9時半から加藤組織局長・増田書記次長が答弁を行った。

《本部答弁》

■組拡「目標は達しなかったが、25万人組織化活動に取り組んで貰って感謝」
■さだみつ選挙「各地本の意見を今後の総括に生かしていく。ただ、最大の敗因はJP労組の組織力低下が原因と認識。3年前のならば

選挙の総括が生かされてなかった。中央・地本の選対との連携不足もある。本場に各支部が精一杯やったのが疑問。組合員の不信感の増大によって気持ち離れているのも原因。参議院選挙の総括は、今後の大切な糧になるので、丁寧な論議が必要になる。組合員が総括に参加する事を求める。」

■ユース「ユースの年齢を引き上げる質疑に対しては、ユースとは将来の人材育成が目的の為、ゆくゆくは支部の役員になって欲しい思いがあるので、年齢群も考慮して考えていく。地域性にあつた教育活動は、各地でアドバンスセミナーを開催して対応していく。役員の育成低調に対しては、実践的な経験を積ませることも重要。」
■心ひとつに運動「各地本の意見通りだと認識。関係地本・支部の

しつかりした論議をして、どのような支援が出来るか対応していく。福祉型労働運動の継続のあり方として、JPSマイルに結合したい思いがある。」

■新たな郵政づくり「グループビジョンの3つの改革を推し進めないと将来は無いとの認識。なぜ社風は変わらないのか？なぜ職場が良くなるのか？うやむやにすることなく、1つ1つ実行を会社に求めていく。中長期経営計画は、近々会社から出されると思うがダメな所は提言していくので意見を」
■株式上場「民営化された会社としては当然の事と認識。ユニバーサルサービスの低下の懸念から凍結していたが、復興財源を増やすためには株式市場は有意義な事。その為には、企業価値の向上が必ずや」と…時間の関係上、要だと認識。」

発言すべてには答えられていない総括的な見解であったが、本部の最終答弁をいただいた。代議員から拍手や「よし」というかけ声はなかったが時間の関係上1号議案を打ち切り、2号・3号議案審議、各種一票投票となった。

一票投票は、全国大会議案から中央本部役員選挙まで12の投票があった。資格審査委員が代議員の出席状況を確認し議場封鎖をした。議場封鎖とは、投票時間中に代議員や傍聴者が退出すると再入場できない。選挙管理委員が動き回り40分ほどで投票が終了した。

開票の結果は次の通り。

- 出席代議員数 463名
- ※1号議案 賛成336 反対124
- ※2号議案 賛成424 反対39
- ※3号議案 賛成439 反対24

- ※中央執行委員長 「小保利通」 賛成378 反対84
- ※中央副執行委員長 「田中德行」 賛成422 反対40
- ※中央副執行委員長 「増田光儀」 賛成358 反対100
- ※中央本部書記長 「窪田義明」 賛成386 反対73
- …その他省略…
- (無効票と棄権票は未掲載)

各種報告の承認を受け大会宣言(案)の提案があり、続いて新旧役員挨拶となった。中央執行委員長の信任を受けた小俣委員長は「JP労組再建のために本音で総括してください。中央本部は真正面から受け止める覚悟をしています」と就任の決意を表明し、3日間の全国大会は終了した。

(傍聴速報最終号)

日刊
ア新東京

No. 1194

2013年
8月28日(水)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

戦後68年 平和と戦争を考える 書籍紹介

沖縄に残る戦争の今

J P労組は毎年、沖縄・広島・長崎など平和の取り組みをおこなっています。

その一環として新東京支部は支部事務室内に「平和文庫」(仮)を設置しました。

今回は沖縄に関連した本の一部を紹介しつゝ、気軽に支部事務室(事務棟二階)に立ち寄って下さい。

・『母の遺したもの』宮城晴美(高文研)

沖縄戦の悲惨の極限「集団自決」の中を生き、「真実」を秘めたまま母は他界した。それから10年、いま娘は、母から託された「事実」を、「集団自決」の実相とともに明らかにするー沖縄・座間味島「集団自決」の新しい証言

・『フォート・ドキュメント 骨の戦世』比嘉豊光・西谷修(岩波ブックレットNo.796)

65年目の沖縄戦 沖縄の地にいまも埋もれているもの、それは戦死者の骨と不発弾 再開の進む沖縄の激戦地跡から次々と発見される日本兵の遺骨は、何を問いかけるのか。その一体の頭蓋骨から、ミイラ化した脳髓が転がり出した。



・『対馬丸ガイドブック』(東洋企画) 対馬丸通信記念会

対馬丸で学童疎開中に攻撃にあい、支社一四七六名中・児童七〇八名の命が奪われた悲劇

・『コザ事件・米兵少女暴行事件』（文春文庫）伊佐千壽

一九七〇年一二月、一つの交通事故に端を発し、沖縄コザは騒然となった。住民は米軍兵士による暴行、強盗、殺人事件など相次ぐ不祥事に長年の怒りが一気に爆発、米軍の車を焼き打ち、基地のゲートに突入、コザ事件が起こった。

一九九五年九月、米兵による少女暴行事件で再び沖縄住民は立ち上がった。

・『沖縄「戦後」ゼロ年』目取真俊（NHK出版）

沖縄に「戦後」はあったのか。戦争と占領は今も続いている。無名無数の戦争犠牲者の声なき声を心に刻み、残忍な沖縄差

別の歴史と現実には終止符を打つ。

・『沖縄絵本』戸井昌造（平凡社）

初めて沖縄を訪れてから五年。「沖縄と原爆の犠牲のおかげで生き永らえている日本人の一人」である画家は、「単純な一人の絵かき」に徹してこの絵本を描き上げる。

その105の点描は、沖縄の歴史と暮らしの全体像を浮かび上がらせ、読者を島へと誘う。CDに収めた島唄とともに

・『水滴』目取真俊（文春文庫）
徳正の右足が突然冬瓜（すぶい）のように膨れ始め、親指の先から水が噴き出したのは六月半ばだった。

それから夜毎、徳正のベッドを男たちの亡霊が訪れ、滴る水に口をつける。それは五〇年前の沖縄戦で、壕に置き去りにされた兵士たちだった……。

沖縄の風土から生まれた芥川賞受賞作「風音」「オキナワン・ブツク・レヴュー」を併録。



日 刊
JP
新東京

No. 1195

2013年
8月29日(木)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

読みつがれ、語りつがれる不朽のロングセラー！

中沢啓次・著

『はだしのゲン』

今回は沖縄関連本に引き続き、
『はだしのゲン』を紹介します。

すでに多くの人が知っている
と思います。NHKの「クロー
ズアップ現代」という番組でも
紹介されました。

作品の内容・表現などについ
てはさまざまな意見があります

が、作者の実体験にもとづく原
爆の惨禍や当時の時代背景・世
相風俗を表現しています。

自伝的な作品で、本来はあり
のままを描こうと思っていたが、
あまりにも凄まじい描写となつ
てしまうため読者が怖がらない
ように抑えたといえます。

母親を火葬した際に骨が残ら
なかつた、という本の中にある
エピソードは、中沢啓治さんに
広島原爆の被爆を題材とした漫
画を描かせるきっかけとなった。

単行本、文庫本などを含めた
累計発行部数は一〇〇〇万部を
超える。

エンターテインメントとして
も魅せる作品として国内外での
評価は高く、映画・ドラマ・ア
ニメ・ミュージカル・絵本・講
談化もされている。

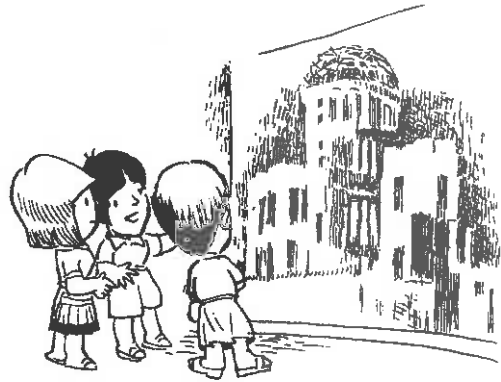
「読んでおきたい日本史モノマ
ンガランキング」で上位に選ば
れた。

二〇〇七年五月にウィーンで
開催された核拡散防止条約(N

P.T)運用検討会議の第一回準備委員会で、日本政府代表団は、本作の英訳版を加盟国に配布することになり、外務省が英語版三〇冊を出版社から譲り受け、「漫画外交」を活発に展開し始めましたが：：いまはどうでしょう？

島根県松江教育委員会が「旧日本軍の兵士が住民を殺害する過激な描写が問題」として松江市内図書館の回覧を制限しようという動きがあります。

また広島島の戦災資料館では、リニユールを契機に三〇年前から提示してあった原爆に焼きタダれた蠟人形を「気持ちが悪い」と言う人がいるという口実で撤去を決めている。



安倍政府が憲法を変えて戦争のできる国に変えようとしている動きとの関連を考えざるを得ません。従軍慰安婦問題や沖縄でみられるように「集団自決」に日本軍が関与していないようなデッチ上げが教科書改訂(神奈川県など)という形でおこなわれつつあります。

戦争はどのように描こうが暴

力なしに明るく描かれるものでしょうか。

68年前の戦争は日本人三〇〇万人、アジア人民は三〇〇〇万人以上の死という犠牲をともなっています。

このような軍国主義への道に突進するようなキナ臭い動きがある中で平和・戦争を考えていきたいと思えます。

組合事務室には『はだしのゲン』全一〇巻を揃えてあります。気軽に組合事務室を訪れて手にして下さい。

「書籍貸出簿」に記入して、通勤や家庭で気軽に読んで下さい。